

栄光の日々が一転、 不運が続いた「三笠」

東郷平八郎元帥が座乗する旗艦「三笠」は、日本海海戦で三十発以上の砲弾を受けるも、沈むことはありませんでした。

その後の第一次大戦でも、三笠は現役として活躍していますが、そこに至る道のりは、決して順風満帆なものではありませんでした。

明治三十八年（一九〇五）九月五日、講和条約（ポーツマス条約）が結ばれ、ここに日露戦争が終結。その六日後、修復を終えて佐世保港に停泊中だった三笠は、後部弾薬庫の爆発により、沈没してしまつたのです。

この事故で三百三十九人が死亡。東郷や参謀たちは、上京の途にあり難を免れました。東郷らの居室は後部にあつたため、もし在艦していたら命を失っていたかもしれません。

発光信号用のアルコールを酒代わりにしようとした水兵たちが、匂いを取るために火をつけた際、アルコールを甲板にぶちまけてしまったとする説もありますが、原因は不明。調査にあつた査問委員会も、「火薬の自然発火」と発表するしかありませんでした。

その後、三笠は引き揚げられ、長きにわたる修復工事を経て、明治四十一年（一九〇八）、第一艦隊旗艦として現役復帰を果たします。

しかし、さらなる不運が三笠を襲いました。大正十年（一九二二）九月、シベリアに出兵した日本軍護衛の最中、露領アスコルド水道で座礁。その二年後の九月には関東大震災に遭遇し、横須賀港にて前部が浸水沈下してしまいました。

「栄光の艦」に起きた度重なる不運——。日本海海戦で三笠が沈まなかつたのは、「運のよい男」といわれた東郷平八郎のおかげだったのかもしれない。



記念艦三笠と東郷平八郎像



三笠だより

日本海海戦でバルチック艦隊を撃滅した連合艦隊の旗艦三笠。今回は、その栄光の陰に隠れた爆沈事故についての展示のご紹介です。

展示室では爆沈事故を含め、今日までの三笠の歴史を紹介しています

三笠の栄光の記録は写真や絵画など、比較的多く目にすることができますが、日露戦争が終わつた六日後に、佐世保港内で爆沈してしまつたことについては意外と知られていません。この事故で三笠は三百三十九名の死者を出しており、日本海海戦の死傷者が百十三名であったことから比較しても、大惨事だつたと言えてでしょう。ただし「沈没」といっても海底深く沈んでしまつたのではなく、水深の浅い港内であつたため実際は艦の上部は海面上に出ていた、着底の状態だつたことが展示の写真相からうかがえます。お立ち寄りの際は是非、ご覧頂ければと思います。



三笠、中甲板砲室の展示

今月のおすすめ商品

Z旗カフスセット（定価三千元）。カフスポタンとネクタイピンの三点セットです。



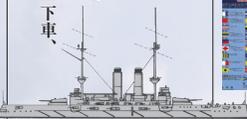
今月の読者特典

三笠売店で「歴史街道」二〇二〇年五月号を見たと言つと、先着10名様にクリアファイル国際信号旗をプレゼント！



記念艦三笠

観覧料金	大人 600円 65歳以上 500円 高校生 300円 小中学生 無料
アクセス	京急横須賀中央駅もしくは JR横須賀駅より 三笠循環バスで「三笠公園」下車、 徒歩1分



TEL : 046 (822) 5225

<http://www.kinenkan-mikasa.or.jp/>

時節柄、臨時休艦している場合がございます。
HP等でお確かめの上、ご来艦下さい。